



上/2012年から小山薫堂さんが主人を務める(下鴨茶寮)は、1856年創業の伝統ある料亭。下/nendoが下鴨茶寮のためにデザインした《料亭の粉しゅうゆ》の容器は、ひしゃくがモチーフ。

小 山薫堂さんと佐藤オオキとの最初の出会い、まだ佐藤が建築家として大学院生だった頃。建築家としての佐藤のデビュー作となる住宅が、小山さんが放送作家をしていた番組で取り上げられたのだ。それ以来、いくつもの接点があった。現在は、現在も一緒に複数のプロジェクトを進めている。世代や仕事のスタンスは違っても、なぜか気の合う間柄のようだ。

佐藤 小山さんには何かとお世話になってます。4月にはミラノでも、ひらめきについてお話しいただきましたよね。確かお風呂がそのための場所になっていてとか、小山 41Cのお風呂に約1時間入るのが、朝の習慣なんです。朝のメールチェックもお風呂の中で、バスタブのフタを机代わりにして向かいます。そこで汗をかいた後、シャワーを浴びた瞬間にアイデアがひらめくことがとても多い。自分に暗示をかけているだけかも

こやまくんどう 1964年熊本県生まれ。放送作家として数々の人気番組を手がけるほか、京都造形芸術大学副学長を務める。また《くまモン》はじめ、企業や地域のブランディングに関わるなど多岐にわたり活躍中。

さとうおおき 1977年カナダ生まれ。2002年デザインオフィス〈nendo〉を設立。10月1日までベルギーにて個展開催中。小山薫堂さんとは、彼が提唱する「湯道」のために、湯船に浮かぶ酒器の開発も進んでいる。

RAIZIN presents 佐藤オオキ(nendo)の ひらめきのスイッチ

photo_Ayumi Yamamoto
text_Takahiro Tsuchida editor_Yuka Uchida

最終回 小山薫堂

佐藤オオキがインタビューとなって、毎月、話種のクリエイターをゲストに招く集中連載。放送作家の小山薫堂さんを迎えた今回がフィナーレです。



今、ひらめきました。佐藤さんにデザインしてほしいのは…。

て夜は飲みに行く、ホテルでは寝るだけですかね。また以前、ニュージランドを旅したとき、現地ではキャンピングカーを借りるのが普通で、それがとてもよかったですというのがあります。あと民泊は、地方では他人を泊めるのに抵抗がある家も多い。でも民家の敷地をキャンピングカーに借すのならハードルが低い。地元の人と旅人の間に交流も生まれ、地域活性化にもなる。そんなワインウィンの関係を考えるのが好きです。

佐藤 クルーズ、ニュージランド、民泊と、いくつもの要素を結びつけた結論なんですね。こういう仕事のクライアントは？
小山 赤字でなければいいと考えて、自分たちの会社で運営します。この活動が受け入れられたら、何かいいことにつながるだろうという漠然とした希望はありますが。

和食は世界で武器になる。しかし限界もあります。
佐藤 社内でプロジェクトを進めることで、ノウハウが蓄積されるというメリットもありますか？
小山 それもあります。クライアント相手の仕事は、なかなか自分事になりませんから。いいアイデアは大切ですが、そのアイデアが誰と出会うかも同じくらい大切です。アイデアの価値が相手に理解されなければうまく行かないし、企画がボツになることも。
佐藤 アイデアには生みの親と育ての親が必要で、育ての親が見つからなければ自分で育てるんです